行政視察報告書

令和　4年　5　月　23　日

長浜市議会議長　　様

長浜市議会議員　宮本鉄也[redacted]

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1．視察等名　　新政クラブ会派視察研修
2．視察期間　　令和4年5月15日（日）～17日(火)
3．視察場所及び目的
　医療法人北海道家庭医療学センター→地域医療について
　帯広市→フードバレー十勝について

4．調査内容感想等

・視察の目的

医療法人北海道家庭医療学センターは長浜市において、浅井東診療所、浅井診療所を運営しています。中山間地域における今後の医療について研修を受ける。

帯広市においては、フードバレー十勝について学ぶ。

・視察の内容

○医療法人北海道家庭医療学センターにおいては、家庭医療が中山間地域にどのような役割を求められているのかについて研修をうける。家庭医療の目指すものは「個々の患者の健康だけでなく、その家族や地域、コミュニティの健康及びQOL、幸福の効果的、効率的な向上」にあるとの事。また、地域医療に対して「地域やコミュニティが有して

長浜市議会

いる健康問題に対して行う活動もまた大切な役割です。しかも、その活動は地域住民に直接働きかける活動もありますが、様々なシステムや仕組みを作っていく活動も重要となります。地域の人口規模にもよりますが、一家庭医が地域で貢献できる範疇には限界があります。そのため、システムや仕組みを構築していくことでより多くの住民に対して質の高いケアを提供することができるようになるのです。地域のニーズを感じ、分析し、行政等の保健師らや医師会等に提案し、政策や活動に反映してもらっていくことも重要です。しかし、忙しい家庭医にとってそのような現場発信の活動はそう容易なことではありません。また、地域の規模が大きくなると様々なステイクホルダーが存在しますし、よりシステムが複雑化しているのでどこに働きかけるのが効率的なのか、どのような方々に協力してもらうとよりスムーズにことを進められるかなどを慎重に検討することが大切です。」との事。

○フードバレー十勝について事務局より説明を受ける。その目的としては

「経済のグローバル化、少子高齢化社会の到来、震災によるサプライチェーンの変化など、地域を取り巻く環境は大きく変化しています。このような状況の中、地域の活性化のためには、自らの意思と責任に基づき地域経済を確立していくことが必要です。十勝が持つ「価値」を再認識し、「食」と「農林漁業」を柱とした経済活動を行うための旗印として、「フードバレーとかち」を掲げ、オール十勝で取り組んでいます。」との事。

帯広市長がこの取り組みを先導し、１２年前の市長就任と同時に発足させている。市長が民間企業に勤務し、派遣されたオランダでの経験を活かしている。

十勝平野において長浜市の３０倍の農地面積がある広大な土地に１９市町村がある。

その中で、十勝ブランドの確立のためには、それをまとめる組織が必要であり

その役割として、重要な取り組みとの事。また大企業との取り組みも積極的に行っている。

・長浜市にどのように生かしていくか？

北海道家庭医療学センターが長浜市にて行っていることは、総合診療医の育成の場として先進的な取り組みである。過疎地域には総合診療医が必要であり、現状では医師不足のなか、この取り組みをまずは、長浜市が協力して行っていることをアピールする必要がある。また、よく似た状況にある地域と連携することを、長浜市が率先して行う必要がある。

フードバレー十勝の取り組みの中で重要なのは、民と官との連携をどういう形で行うかということ。長浜市においても、第三の組織を作り、一体化した長浜ブランドを作る必要がある。世界情勢が不安定な状態はしばらく続くと思われる。地域の食糧自給を高めるために、必要な施策を性急におこなうべきである。